

県女第一期生より、皆実高校生に至る  
 116年の歴史に連なる者、  
 また今後、この同じ流れに連なる者、  
 手をつなぎ足音高く歩もう。  
 足音高く声を揃えて元気に歩もう。  
 我等は、皆実有朋会会員（37,161人）である。  
 歩もう、歩もう力強く！



**No. 80** 2017 (平成 29) .12.15



## 受け継がれる校訓

「この世の中は美におもしろい所である、楽しく自由に生きようではないか。楽しく生きる道はただ一つ。自分の責任で、物事を勤勉に強行し、自由な人間になることである。それは何時でも何処でも常に自分で責任を持ち、自分が主人公になることである。」

自分で責任を持つことが容易でないように、自由というものは簡単には得られるものではない。高校生ともなれば責任の何たるかを自覚し、責任は一切自分にあると覚悟すべきである。そう覚悟した場合のみ人間は自由になれ、楽しく生きられるのである」

この一文は、第四代校長木村二郎先生が1956年（S31年）全校生徒に配付された冊子「皆実高校生徒諸君」の中に書かれたものです。やがてこれらの話の内容が、皆実高校生徒の学校生活の大きな柱となっていきました。

そして1962年（S37年秋頃）「勤勉 強行 責任 自由」の文字は、グラウンドにあったコンクリート壁面に文字として掲げられました。（写真1）それから、この壁面はサッカーのキック板やテニスコートの打ち込み練習用としても利用されました。以来「勤勉 強行 責任 自由」はいつも生徒の目に触れ、生活の指針となり、校訓となっていくたのです。しかし、初代のプレートはグラウンド改修により1993年（H5年）姿を消し、二代目の校訓プレートとなり、形を変えグラウンドの端のフェンス上に掲げられました。（写真2）

それから24年、プレートの字が薄くなり見えにくくなっていました。この現状を受け、この度、学校関係者、同窓会の皆様のご尽力により、玄関上の壁面に三代目の校訓プレートが設置されました。そして今年2月末、校訓プレート披露式（写真3）を挙行し、在校生、教職員、同窓会役員等が、校訓の言葉の持つ意味、生まれた背景等を共に考える機会を持ち、全員で祝福しました。

校訓プレート設置委員会 委員長 貞廣 隆道



写真1



写真2



写真3